

になつたんですが、そのスクリーンのついでには水深一メートル内外ですが、船の上からスクリーンがくるくる回っているのが、はっきりと見えたもんです。ところが今は全然見えませんからね。たつた一メートルの深さにあるスクリーンがね。水が濁ってきても、ワカサギも取れなくなりましたね。

ワカサギが取れなくなつた原因は、汚染の他に密漁も大分関係してますね。四十二年にトロールになつたんですが、これはモーターをかけて網を引っ張りさえすれば簡単に魚が取れる。帆曳きみたいは何年も修業しないと使えないものにならないのとは違って、夜だろうが、風がなからうが関係なし。だから密漁をする者が増えて、乱獲がワカサギの資源をすっかり荒してしまつたと言えますね。無論汚染も重大な因をなしてしまつた。なにしろ他から持ってきた卵を放しても、水が汚れていて孵化しないんですから。

佐賀(善)まあしかしとに角、帆曳がなくなつたのは寂しいなあ。夕陽まさに落ちんとする時、西に靈峰筑波遙か遠くに富士の山を望み、湖面にはまるで鶴の舞い降りたよりの帆曳の船が点々と浮かぶ様は、実に言葉に尽くし難く美しいものだった。おれはよく土浦から「通運丸」などという外輪船に乗って、牛渡まで帰っ

て来たもんだが、途中幾十艘もの船に乗つた漁師達が大西風の吹く中を風に向つて、すつ裸で汗をばたばた流しながら漕いでいくのを見たもんだよ。やがて網を降り帆が点々と上がると、田伏、志戸崎の間が真白になる。それがちょうど正に太陽が山に沈まんとする時なんだな。何とも美しいものだった。

ところが、昭和四十二年に帆曳からトロールに変わつて、漁法が完全に変化したんだな。帆曳は人力と自然の力でやつたもんだ。ところがトロールは動力だよな。つまり自然に逆らつてやっているとわけた。そこで乱獲が起こり、自分の首をしめてしまったというわけだ。昔は風が吹かなければ休む。月夜の晩も休むというわけで、自然にコントロールされていたのが、今はコントロールをするものがないんだ。しかし、ワカサギがとれなくなつたのは、漁民だけの責任じゃない。水の汚染というのが、最も大きな原因だ。

なにしろ、昔は雨が降ると、田んぼや近くの川で、手づかみで鮒や鯉がとれたんだから、鼻たらしの三尺に満たない童子が、バケツにいっぱい魚をとるのは朝食前の事だった。底に穴のあいたザルを水の中にザブとつけると、魚が入ればザルを持った手に何とも言えない感振が伝わる。つまり穴から中に入った魚が逃げ